

観点	Gensparkスーパーエージェント	OpenAI Deep Research	Manus
主な用途・想定ユーザー	幅広いタスク自動化を求めるビジネスパーソンの教育者向け。もともと検索特化型の生成AIとして登場しnews.mynavi.jp、最新情報収集から資料作成まで自律処理できる汎用エージェントとして最適ツール/モデルを自動選択してタスクを実行しますnote.com,note.com。ウェブ検索による情報収集、テキスト分析・要約、レポート作成/プレゼン資料の自動生成、画像・動画コンテンツの生成まで可能bhtaym-blog.com。さらにPythonコードの生成・実行によるデータ分析やbhtaym-blog.com、AI音声による電話発信(予約代行) bhtaym-blog.com、旅行プランニングと予約提案bhtaym-blog.comなどユニークな機能も搭載。入力された指示をもとに、複数ステップの作業を自律的にこなしますbhtaym-blog.com。	高度なリサーチが必要なものユーザーや研究者向け。複雑な調査タスクを自動化する「研究ナラシスト」のエージェントで、知識労働や学術調査を支援するよう設計されていますgigazine.net。市場分析や競合調査や旅行計画、物理学・生物学などの学術分野まで対応可能gigazine.net。エビデンス重視のレポート作成や広範な情報収集が求められる用途に適し、専門家や分析担当、大学生などが主な想定ユーザーです。日常的な雑務質問より、本格的な調査・レポート作成に向いています。	複雑な業務フローを丸ごと任せたい先進的ユーザーや企業向け。ユーザーの「やりたいこと」を入力すれば最後まで自律実行する汎用AIエージェントnote.com,note.com。生産性飛躍を狙うビジネスリーダーや開発者に注目されていますnote.com。履歴書選別や旅行日程立案、ウェブサイト構築までこなすのモテがありbusinessinsider.jp,businessinsider.jp。ビジネス業務の自動化(資料作成・データ分析・情報整理)やプロジェクト管理まで、手を手介さずAIに任せたい用途に適します。また一般には限定提供ですが、最新技術を取り入れる企業やパワーユーザーが想定利用者です。
基本機能	自律型の複数AIエージェントによるワンストップ機能。9種類の大規模言語モデルと80以上のAIツールを組み合わせたハイブリッドシステムでbhtaym-blog.com。ユーザーの指示に応じて最適なツール/モデルを自動選択してタスクを実行しますnote.com,note.com。ウェブ検索による情報収集、テキスト分析・要約、レポート作成/プレゼン資料の自動生成、画像・動画コンテンツの生成まで可能bhtaym-blog.com。さらにPythonコードの生成・実行によるデータ分析やbhtaym-blog.com、AI音声による電話発信(予約代行) bhtaym-blog.com、旅行プランニングと予約提案bhtaym-blog.comなどユニークな機能も搭載。入力された指示をもとに、複数ステップの作業を自律的にこなしますbhtaym-blog.com。	ChatGPTに統合された多段階リサーチエージェント。オンライン情報の発見・統合・推論を自動で行う新機能でgigazine.net,gigazine.net。インターネット検索を何度も重ねて関連コンテンツを集約し、一つの回答にまとめ上げます。検索プランを動的に更新しながらマルチステップ検索を実行するため、質問に関連する事実を漏れなく収集可能gigazine.net。またユーザーがアップロードしたPDFやデータファイルの解析、Pythonスクリプトによる計算やグラフ作成、ウェブ上の画像・表の読み取りも行える高度なツール統合も特徴ですgigazine.net。出力は引用付きの詳細なレポート形式となりgigazine.net。通常のChatGPT回答より遙かに充実した内容を提供します。	タスク分解から実行まで全て自律的に行うAIエージェント。ユーザーは大きな目標を伝えるだけで、AI自身がタスクを細分化し計画立案、順次実行しますnote.com。一度の指示で複数のサブタスク(ウェブ検索→分析→結果出力)を人手なしで完遂する点が特徴です。マルチモーダル対応でテキストだけでなく画像・音声・動画も理解し、画像を見れば内容を把握して行動に反映可能note.com。さらに仮想マシン上でブラウザやコードエディタ、表計算ソフト等を操作して外部ツールを駆使しますnote.com。ユーザーの過去の指示や好みを学習する適応学習で、使うほど個人に最適化されたAI企業を提供します。処理はクラウド上で非同期に行われ、ログアウト後も長時間タスクを継続実行できるのが特徴ですnote.com。履歴書の仕分けから株式分析レポート作成、ゼロからのWebサイト生成まで実現されておりbusinessinsider.jp,businessinsider.jp。人間の指示を超えて**自律的に「行動するAI」**として機能します。
検索精度・情報の網羅性	最新情報を高精度で収集。もともと最新のウェブ情報を扱える点が強みでnews.mynavi.jp。独自に収集した10種類以上のWebデータベースも併用して幅広い情報にアクセスしますbhtaym-blog.com。複数LLMとツールの併用により情報ソースの信頼性も高く、ベンチマーク(GAIA)では情報の正確さ・信頼性で他ツールを上回るとされていますnote.com。必要に応じて専門データベースも引いた網羅性が高く、最新のニュースから専門知識まで幅広くカバー可能です。	非常に網羅的で正確な情報収集。マルチステップの検索戦略により、質問に関連する情報を徹底的に探索、統合しますgigazine.net。新しい情報を見つけたら検索クエリを更新するため、見落としが少なく、回答の網羅性が極めて高いです。実世界の問題への対応力はGAIAベンチマークでは平均67%以上の正答率を記録し、従来最高記録(63.6%)を更新しましたgigazine.net。このように総合的な情報網羅性ではトップクラスで、引用付き回答により信頼性も担保されています。	非常に高い探索能力とカバー範囲。必要な情報は自らウェブ検索や外部ツール操作で収集し、多様な形式のデータも読み取れるため(画像・表も解析)note.com、タスクに必要な情報を漏れなく集める傾向があります。GAIA評価ではLevel1課題の正確率86.5% / OpenAI Deep Researchの74.3%を大きく上回る性能を示していますnote.com。複雑なタスクでも関連データを集めて処理するための網羅性は高いですが、情報源の提示(出典明示)は行わないので、内容検証にはユーザーの確認が必要です。
応答速度	実用上は高速。複雑なタスクでも数分程度で結果を生成するケースが多く、例えばプレゼン資料自動作成が約5分で完了したとの報告がありますbhtaym-blog.com。GAIA評価でも応答速度で優位とされておりnote.com。同種エージェント中では非常に高レスポンスが期待できます。簡単な問い合わせであれば従来のチャットボット並みに短時間で回答し、重い処理も裏で効率的に並列実行することで全体の待ち時間を短縮しています。	従来より遅い(長時間処理)。通常のChatGPT応答よりはるかに時間をかけ、5~30分程度の処理時間を要する場合がありますgigazine.net。応答速度の制約を意図的に取り入れており、迅速さよりも徹底した調査を優先する設計です。そのため応答性は低く、ユーザーは結果を待ち続ける必要があります。短時間で済む簡単な質問にはオーバーサックで、速度面では他のツールより明確に劣ります。	比較的高速だがタスク次第。デモでは履歴書の分類やデータ整形を数秒でこなす様子が見られますbusinessinsider.jp。多くの作業を迅速に処理できます。アップグレードプランでは最大5タスクを同時実行でbloomberg.co.jp。実行時間により効率を上げることが可能です。とはいえタスク内容によって処理時間は変動し、複雑なプロジェクトには相応の時間がかかります。またGensparkの速度面と優位とする指標はありますが、速度は速いもの他要素とトレードオフも見られます。
専門性・分野適応力	多分野に適用可能なオールラウンダー。9種のLLMからタスクに応じた最適なモデルを遊ぶblonote.com。学術研究からビジネス文書、クリエイティブな資料作成まで幅広い分野に対応できます。YouTubeのTED講演から日本語の資料を作成するbhtaym-blog.comなど言語間の橋渡しも可能で、多言語・多分野に強い柔軟性があります。ビジネス利用ではマーケティングやデータ分析、教育分野では教材作成、研究では論文サマリーなど用途に応じて高い応答性を発揮します。特定分野に限らず、総合的なサポートがさらけが強い点です。	リサーチ分野に特化。Web上に情報が存在する分野であれば原則対応できますが、その性質上分析・調査系タスクに焦点が当たっています。OpenAIも市場調査から学術研究まで様々な知識領域で活用できるとしていますがgigazine.net。いずれも「情報収集として考える」という用途です。したがってビジネスや学術の知識領域では強い応答力を示す一方、創作や対話など調査以外の分野には向きません。物理・CS・生物学など専門領域の資料集めにも使える汎用性があります。あくまで情報検索・統合が主たるツールです。	ジェネラリスト志向だがビジネス領域で真価。「汎用AIエージェント」を標榜するだけでなく、特定の領域に限定されず幅広い課題に取り組みます。特にビジネスプロセス全般(例:マーケティングレポート作成、候補者選別・採用手続き、自社データの分析など)を自動化する場面で高い適応力を発揮しますbusinessinsider.jp,businessinsider.jp。コードエディタやプログラミングでもできるためIT開発領域にも対応可能で、画像・音声理解によってクリエイティブ作業の支援も潜在的に可能ですnote.com。さらに継続学習でユーザーの業界・好みに合わせて学習するため、使うほど特定分野への適応度が高まるのも特徴ですnote.com。ただしサービス自体は英語/中国語圏主体で設計されており、日本語など他言語での専門タスクには現時点で若干の不確実性があります。
インターフェースとユーザビリティ	Webベースの直感的なUI(日本語対応)。公式サイトでアカウント登録後、メニューから「スーパーエージェント」モードを選択して利用しますnote.com。チャットボックスに希望するタスク内容を具体的に指示入力するだけでOK(例:「中2英語の比較級・最上級を教えるスライド10枚作成」)note.com。あとはバックグラウンドでタスクを細分化しステップ実行してくれるため、ユーザーは結果を待つだけですnote.com。最終成果物(文書・画像・スライド等)は画面上に提示され、必要に応じてダウンロードや共有も可能です。基本的な機能はシンプルで多機能を感じさせないよう設計されており、専門知識がなくても操作しやすいUIになっています。	ChatGPTインターフェースに統合。ChatGPTの入力欄に質問を入れ、「Deep research」ボタンを押すだけで利用できますgigazine.net。開始直後、モデルが理解を深めるための追加質問をチャット上で投げかけてくる場合がありgigazine.net。ユーザーはそれに答えることで要件を明確化できます。その後、右側のサイドバーにモデルの思考過程(検索キーワードや関連するサイトなど)がリアルタイム表示されgigazine.net。裏で処理の進行、完了するとチャット画面に詳細な回答が返ってきます。普段のChatGPTと同じ画面で使えるため馴染みやすく、経過も可視化されるので安心感がありますが、処理中は長時間待つ必要があります。全体的にはインターフェースの学習コストは低く、UI/UXは良好と言えます。	現在はクラウド版Webインターフェース。招待制のプレビュー版として提供されており、専用のダッシュボードまたはチャット画面から初期プロンプトを入力して利用します。詳細なUIは限定公開のため不明点もありますが、複数タスクをこなすための画面や進行状況の公開などが用意されていると推測されます(実際、高額プランでは最大5つのタスクを同時実行できるように、その管理UIがあるはずでbloomberg.co.jp)。ユーザーの操作は最初の指示入力のみで、中間工程は自動処理されるためシンプルです。反面、処理の可視化や介入は少なく「お任せ」感が強い点です。サービス自体は英語/中国語圏中心と思われ、日本語対応やローカライズは今後に期待するような状況です。
外部連携	内部ツール連携は豊富だが、外部提供APIは未公開。内部的には80以上の外部API(サービス・データベースと連携し(地図・予約・SNS等を含む)と推測)。電話発信では実際に公開顔面を使用するbhtaym-blog.com。様々な外部ツールを駆使します。ただエンタープライズ向けには現状Webアプリとして提供されており、他アプリへの組み込み用APIは公開されていません。今後エンタープライズ向けにAPI連携やプラグイン提供の可能性はありますが、2025年4月時点ではまだスタンドアロンのサービスとして利用する形です。	ChatGPTエコシステム内で提供。単体のAIエージェントではなく、ChatGPTの機能の一部として動作します。現時点でDeep Research専用の公開APIやプラグインは発表されておらず、外部サービスとの直接統合は不可です。将来的にはChatGPTのビジネス版や教育版で組織間利用が想定されていますgigazine.net。その場合もOpenAIプラットフォームでの提供となります。他アプリから利用するにはChatGPT API経由で類似のマルチステップ検索を実装する必要がありますが、公式にはDeep Research機能のAPI提供はまだありません。	現時点では独立したサービス。Manus自身が様々な外部ツールを操作してタスクを完了する設計(例:ブラウザ操作でWebサービスにアクセス)はありますがnote.com。それがあくまでエージェント内部の自動化です。ユーザー企業とのシステムと連携する公式APIや、他アプリからManusにタスクを投げ込む仕組みは公開されていません。基本はManusのインターフェース上で完了するサービスです。ただし将来的に商用展開が準備は、企業向けに統合APIやシステムエージェント連携機能が出てくる可能性はあります。現状は外部との直接連携手段は限定的と言えます。
カスタマイズ性	ユーザーによる調整はほぼ不要(不可)。最適なモデル・ツール選択はシステムが自動で行うblonote.com。利用者が個別に設定をいじる場面はありません。ユーザーは欲しいアウトプットを指示するだけで、その内容に応じて内部で動作が変わります。現時点では自分でデータを学習させたリファインを追加したりといった機能はなく、調整でも同じ能力を発揮する汎用性として提供されています。一方でユーザーが自分の資料を入力データとして与えることは可能。言い換えればそのまま使える完成品志向で、細かなカスタマイズより汎用性に重きを置いています。	出力内容のカスタムは不可だが、入力データで調整可能。モデルそのものは固定ユーザーがチューニングする余地はありません。ChatGPTと同様にプロンプトを工夫することで出力形式を調整し、必要に応じて出力ファイルをアップロードして参照させられますgigazine.net。設定メニュー毎にモデルが学習することなく、毎回ゼロベースで学習します。しかしユーザー等も特になく、カスタマイズ性は低いですが、その分一貫した性能を発揮します。	使い込むことでユーザーに最適化。ユーザーが何もしなくても、Manus自身が過去の利用履歴からユーザーの好みや作業パターンを学習し、徐々にパーソナライズされたタスクの指示や呼びかけを行いますnote.com。この適応学習により、指示の癖や要求の結果の傾向を把握してくれる点は他のAIカスタマイズと言えそうです。一方でユーザーが直接設定を変更したり、独自にプラグインを導入したりといった機能は提供されていません。あくまで内部での自動最適化が中心で、明示的なカスタマイズ項目は提供されていない状態です。
価格 / プラン体系	フリーミアム型(無料+有料プラン)。**無料プラン(¥0)でも基本的な検索・簡易資料作成、限定的な画像生成は利用可能ですが、1日あたり200クレジットまでの制限や高度機能の利用制限がありますnote.com,note.com。全機能を使いたい場合は有料プラン(月額24,990円/約3,750円)**への加入が必要でbhtaym-blog.com。Plusではクレジット制限が大幅緩和され、利用可能なAIモデル・エージェントもフル解放されます。商用利用する場合はPlusプラン契約が推奨(将来的には必須化の可能性)と明記されていますnote.com。現状プラン体系はこの無料と月額課金の二本立てです。	ChatGPT有料版の新機能(今後拡大予定)。リリース当初はChatGPTのPro利用向けに提供開始され、その後Plus(月額¥2,700)やチームプラン、教育版プラン、エンタープライズ向けにも順次展開予定でgigazine.net。無料ユーザーは現時点では利用不可ですが将来的に提供予定とされていますai-souken.com。利用回数に制限があり、情報はPlusプランでは月100回程度、上位プランでは月1000回程度のDeep Research実行が可能とのことですがnote.com。追加料金ではなく既存プランの機能扱いですが、高負荷な処理の回数制限と上位プラン優遇が受けられています。	高額サブスクリプション制。現在ペーパー版ながら無料制(招待制機能限定)が提供されている一方、正式な有料プランが設定されています。基本プランは月額39,900円(約5,900円)、そして高機能版は**アップグレード版は月額199,900円(約3万円)**と発表されていますbloomberg.co.jp。価格は同様に最大5タスク実行可能な大規模利用向けにbloomberg.co.jp。後者はChatGPTの上位プランに匹敵する強気な設定です。中国発のサービスとしては異例の早さで収益化を図っておりbloomberg.co.jp。それだけ開発に必要を見込んでいることが伺えます。企業利用を念頭に置いていない価格帯で、個人ではかなり高額です。
メリット	- 機能の総合力: 単一のAI(検索→分析→文書・スライド作成→画像生成→予約代行)まで完結できるため、様々なツールを乗り換え手順が省けますbhtaym-blog.com,bhtaym-blog.com。特にビジネスシーンでは調査から資料化、意思決定補助まで一貫支援してくれる点が有用です。 - 高速かつ高精度: マルチエージェントによる並列処理等で応答が速く、情報の信頼性検証も行うため回答の正確さも高めますnote.com。最新情報に強く、アップデートも頻繁なことで新しい知識を提供します。 - ユニークな拡張性: 画像や動画の生成、電話予約の自動化といった他ツールにはない機能を備え、業務から日常まで幅広くサポートできますbhtaym-blog.com。日本語を含む多言語対応で、言語の壁を超えた活用も可能です。 - 導入ハードル低め: 無料プランが用意されており試しやすいこと、UIが直感的で専門知識不要なこと、AI初心者でも使いやすいメリットがあります。	- 圧倒的な調査力: 人間のインタラクションが数日かかる調査も短時間で網羅的に実施し、引用付きの詳細な報告書レベルの回答を得られますgigazine.net。エビデンスが明示されるため信頼性が高く、裏付けのある結論を得られる点が大きなメリットです。 - 自動推論と動的検索: 単に検索結果を並べただけでなく、モデルが内容を飲み込んで推論・要約し、自ら追加検索する高度なプロセスで質の高い回答を生成しますgigazine.net。ユーザーの負担を減らし、複雑な問いにも一貫的な答えを導き出します。 - 扱いやすさ: ChatGPTに統合されているため追加の導入が不要で、対話形式で使える手軽さがあります。専門家レベルの調査を誰でも行えるような点で、調べ物に費やす時間を大幅に短縮できるのもメリットですai-souken.com(煩雑な文書整理等を私が代行)。 - 多分野への適用: ビジネスレポートから学術レビューまで様々な分野の知識に対応できるため、汎用リサーチツールとして活躍します。特に社内資料作成や市場調査では、人手では難しい大量の情報整理を迅速にこなしてくれます。	- 完全自律による生産性向上: ほんの一行の指示で複雑なプロセスを最後まで実行するため、ユーザーは指示を出すだけで仕事が終わりますnote.com。これにより前述の生産性向上(10倍以上の省力)が期待できます。複数タスクの同時進行も可能でbloomberg.co.jp。人間では難しいマルチタスク処理を難なくこなします。 - 幅広いタスク対応力: ブラウザ操作やコード生成など実務の能力を持つこと、並んだテキスト生成AIを超えて**「実務代行」が可能でnote.com。例えばスプレッドシートへの入力作業やウェブ記事構築といったアウトプットも自動で得られますbusinessinsider.jp,businessinsider.jp。 - ユーザーへの適応学習: 使えば使うほどユーザーの嗜好を学習し、より最適な指示や返信のスタイルになりますnote.com。長期的に見れば半分専用型に最適化されたAI秘書**のように成長する点は大きな強みです。 - 性能の最先端: GAIAベンチマークでトップクラスの成績を収めるだけでなく、現時点で最高水準の汎用AIエージェントと言えます。Sam Altman氏ら業界著名人も「驚異的」と評価しておりnote.com。技術的先進性と話題性を兼ね備えています。
デメリット	- 高度機能は有料: 無料プランではクレジット制限や利用不可の機能があり、継続的かつ大規模に使用するには有料プランが必要でnote.com。予算がないユーザーには一部機能しか使えず、ヘビーユース時にコストが発生します。 - ブラックボックス性: マルチエージェントが裏で色々行っているため、その過程がユーザーから見えない。Deep Researchのように推論過程が表示されないため、結果に至る経路が不明になりがちです。出典情報も基本は提示されないため、重要な決定に際する際はユーザー側で確認が必要でnote.com。 - 学習や調整不可: 利用者が出力のスタイルや使うデータをカスタマイズできないため、思った結果と違った場合の修正は追加プロンプトで試行錯誤する必要があります。万能な反面、専門化型ツールには精度で劣る場合もあり、オールマイティゆえの中途半端さが出る恐れもあります。	- 処理待ち時間: 最大30分待ち時間は「ユーザーリテラシー」上の大きなマイナスで、気軽に活用できませんgigazine.net。「すぐ回答が欲しい」という用途には不向きで、緊急対応や対話的な利用にはストレスが溜まります。 - 利用制限とコスト: 現状Plus以上の有料会員しか使えず、一般ユーザーには数回しか使えませんnote.com。さらにPlusプランでも月に数回程度しか使えないのが高い。頻繁に活用したい場合は上位プランへのコスト負担が必然ですai-souken.com。 - 用途の限定: あくまでリサーチ専用用途に限られるため、創造的文章の執筆や対話には向きません。外部サービスと連携して何か操作する機能もないので、結果はテキストレポート形式になります。「調べたいこと」以上のこと(予約代行やコード実行など)はできません。汎用AIとしての機能はGenspark/Manusに劣ります。 - その他: モデルが大量のウェブ情報をアクセスするため、場合によっては不正な情報源や有害な情報を拾うリスクもありません(もともと出典付きで提示されるのは発見は容易)。また、現状は機能があるため稀に予期せぬ挙動や失敗も起こり得、安定利用にはもう少し時間が必要かもしれません。	- 非常に高額: 先進的な機能と引き換えに料金負担が非常に高く、特にアップグレード版(約3万円)は個人には手が届かない価格帯でbloomberg.co.jp。無料版もありますが招待制かつ制限付きで、気軽に誰でも使える状況ではありません。 - 成熟度と信頼性: 最先端ゆえに開発途上の部分もあり、意図しない動作や誤断が発生するリスクがあります。完全自律ゆえに暴走した場合はコントロールが難しく、クリエイティブな作業を任せるとは不安も伴います。初回ユーザーからは「Anthropic Claudeに依存的なトッパーではない」との指摘もありbusinessinsider.jp。革新性に疑問を呈する声もあります。 - データ / プライバシー: クラウド上でユーザー代行作業を行うため、機密情報を預けることへの抵抗感があります。特に中国発のサービスという点で機密管理を懸念する企業もあるでしょう。現状利用するにはManusに相当の信頼を置く必要があります。 - 言語・ローカライズ: インターフェースや想定利用言語は英語/中国語が中心で、日本語など他言語での細かい応答品質は未知数です。多言語対応は取られていないため、利用者と言語を違ふ側面デメリットと言えます。